

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第50号

2015.3



小学部6年 校外学習



中学部3年 校外学習



高等部3年 研修旅行

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2・3
 - 小学校 p 4
 - 中学校 p 5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10

研究主題 幼児教育の質を高める計画と実践の在り方を考えるⅢ ～主体性と協同性の視点から～

1月30日、第59回附属幼稚園研究大会を開催しました。県内外から約250名の参会者をお招きし、盛会に終えることができました。

今年度は3年次として、新しい指導計画を生かしながら保育を実践する中で、子どもの主体性に着目し、一人一人の育ちの基盤となる主体性と協同性のつながりを考えて研究を進めていきました。

＜日程・内容＞

9：00～10：50 公開保育

11：10～12：00 全体会 ～開会式・研究経過報告～

13：00～14：10 分科会

協議テーマ

「主体性と協同性のつながりをどう捉え、育んでいくか」

14：30～ 講演

文部科学省初等中等教育局視学官 津金 美智子先生
(併任) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教科調査官

「質の高い幼児期の教育を考える

～主体性と協同性の視点から～

1. 研究内容

(1) これまで作成してきた指導計画に基づいた保育実践を通して、子どもの「主体性」を見取り、探っていく。

1, 2年次の研究から、協同性の育ちの中に主体性が大きな意味をもつことは理解していました。しかし、これまでより深く、一人一人の心の内面について探ることで、一人一人が「人」「もの・こと」とのかかわりの中で「自分」とのかかわりが明らかとなるのではないかと考え、子どもの主体性を見取り、探っていくことにしました。また、子どもの主体性を見取った上で、協同性とどのようにつながっているのかについても研究を進めていくことにしました。

(2) 子どもの主体性を促す教師の援助について探る。

子どもの主体性を、一人一人の内面からとらえるとき、その思いや考えをどう見取っていくのか、子ども自らが生き生きと自分をあらわしていくにはどのような援助が適切であるのかを見極めていくことが教師に求められています。教師が子どもの内面をどのような思いや考えをもって見取るのか、その見取りからどのように援助につなげていくのかについて探っていきました。

2. 研究の成果

(1) 主体性、主体性と協同性のつながりについて

① 人、もの・こととかかわることを通して高まっていく主体性

主体性は、人、もの・こととかかわる中で心を動かし、はぐくまれていきます。さらに、その過程の中で高まっていくことが分かりました。

② 人、もの・こととかかわる中での自分との向き合い

①を通して、子どもは常に自分とも向き合い、その中で自分を広げたり深めたりしています。その過程は、もの・こととかかわりにも継続して生かされていくことが分かりました。

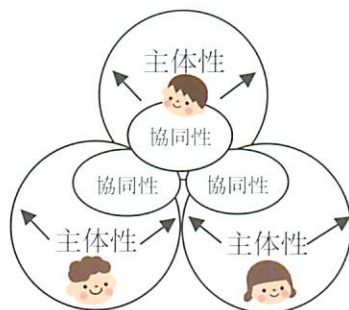
③ 主体性の発揮と協同性のつながり

②を通して、それぞれの主体性が集団の中で発揮されることで、協同性がはぐくまれます。さらに協同性の育ちが豊かになっていく中で、一人一人の主体性もまた、豊かなものとなっていくことが分かりました。

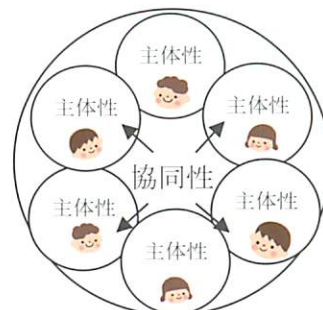
【協同性の芽生え】



【つながっていく協同性】



【主体性と協同性は互いに高め合う】



入園

(子どもの育ち)

修了

人、もの・こととのかかわりを通して心を動かし、主体性がはぐくまれ、高まってもいく。また、やりたい思いで遊びに夢中になる中で、協同性が芽生える。主体性を自分なりに発揮し、友達と心揺らす体験が積み重なっていくことで、少しずつ協同性がつながっていく。そして、共通の目的をもった遊びが生まれ、実現していく喜びを共有する中で、協同性がはぐくまれる。それが、一人一人の主体性の発揮にもつながり、より高められていく。主体性と協同性は互いに高め合う関係である。

(2) 主体性を促す教師の援助について

① 一人一人の内面の思いを深く丁寧に探る

子どもと共に心を揺らしながら、目に見えない内面を探っていくこと、また、体験のもつ意味を考え、一つ一つの体験を関連させながら見取っていくことを大切にする。

② 一人一人の思いに添った環境構成を考える

子どもの思い・指導計画のねらい・教師の願いや意図がバランスよく絡み合い、それぞれが生かされる環境を構成していく。

③ 個の自己発揮と集団の中での自己発揮を支える

個の主体性の発揮を支えると共に、個と個のかかわり合いで高まっていく主体性にも目を向け支えていく。個と個のかかわり合いが、やがて大きな集団となったとき、さらにその中での自己発揮も支えていく。

※ 幼児教育の質を高める計画と実践の在り方を考える中で、指導計画はあくまで仮説であり、目の前の子どもと共に作り上げていくことに本当の価値があることを改めて理解することができました。今後も、子どもたちの主体性・協同性が発揮されていくよう、保育の質の向上を目指していきます。

ご講演から

「質の高い幼児期の教育を考える－主体性と協同性の視点から－」

文部科学省初等中等教育局 視学官 津金美智子 先生

幼稚園教育とは、「生きる力の基礎」をはぐくむことをめざしている。幼児期の生活を豊かにするため、幼児の主体的な遊びを十分に確保する必要がある。遊びを通して、自己表出し、探索・思考し、知識の蓄えの基礎をはぐくむ。また、もの・こととのかかわりを通して、自我形成し、人とかかわり、社会について学んでいく。かかわりの深まりは、互いに影響し合う、学び合える関係であるため、主体性と協同性の育ちとして、大切に考えたい。

小学校教育との接続の視点からも、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を考えることが重要である。「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へと子どもたちの学びが意識されていく教育活動を進めていきたい。



研究主題

対話を通じた「思考力」の育成

—「育てるカウンセリング」を生かして、個々の考えを広げ深める授業づくり—

1月25日（日）、31日（土）、2月1日（日）の3日間にわたり、教科別授業研究会を開催しました。耐震工事等の関係で授業と研究討議のみの開催となりましたが、県内外から延べ750名もの参加者に来ていただき、盛会裏に終えることができました。本年度は、思考における対話の働きに着目して授業づくりに取り組み、その対話を促進するために「育てるカウンセリング」の考えを生かした働きかけを行いました。

研究授業

5年 家庭科「かしい消費者になろうーめざせ！買物の達人ー」

芳我 清加

本単元は、有限である資源や収入の大切さに気付くとともに、買物の際には自己の生活課題に合った判断基準に基づいて主体的に選択できる、意思決定力をもった消費者の育成をねらいとして実践しました。例えば、収入は、家族が働いて得た大切なものであり、生活に必要な物の購入やさまざまなサービスを得るために使用されていると理解することで、限りある収入を無駄にしないための計画の必要性に気付いていきます。また、「たくさん入ってお得でも、3人家族のわが家では食べきれないので、もったいない。」と値段や量について考えたり、「なるべくごみは減らしたい。」と環境に配慮したりしながら選択する力を付けていくことが大切です。



【ボードを使っでの話し合い】

このような思考力を育成するためには、商品の特徴に焦点化して吟味する必要があると考え、物を選ぶときに優先しがちな味や好み等を、あえて除外した教材を用いることにしました。そして、同じメーカーの緑茶4種類（①2Lのペットボトルと紙コップ②500mLのペットボトル人数分③250mLの紙パック人数分④湯を沸かして茶葉から入れる）を比較し、自分だったらどれを選ぶか、また選ばないか、その理由について話し合う場を設定しました。今度の参観日に、おうちの方にご飯とみそ汁を食べていただきたいと計画している子どもたちは、よりよい活動にしたいと大変意欲的に話し合い、「④は自分で入れるから真心を込められる。それに温かいお茶を入れてあげられるからいいね。」「①は手軽だけれど紙コップがごみになるから、湯呑みを使えばいいよ。」等、多様な視点で比較しながら、目的に合った商品を選んでいきました。



【参観日の様子】

参観日当日は、「電気ポットを使ってあらかじめ湯を沸かそう。」と工夫したり、食事とタイミングを合わせてお茶を出したりする心配りが見られ、学習の成果を保護者の皆様にも見ていただくことができました。

4年 社会科「災害を前に、みんなの力で守ろう！わたしたちの暮らし」

藤本 博文

本単元では、地域社会における災害の防止や発生時の対応について、さまざまな組織や人々の取り組みを比べたり、それらがどんな関係になっているのかを明らかにしたりして、防災や減災についての解釈をし直すことをねらいました。ただ、従来されている火災の学習だけでは、公助に目が向いてしまい、自助はまだしも共助のよさが十分見えず、それぞれの関係を捉えることができなくなってしまうことが考えられました。そこで、火災を扱った上で、公助が十分に機能しないことがある地震を扱いました。



【資料を根拠にして話す】

本時では、南海トラフ巨大地震で想定されている最大震度と同じ震度6弱の地震が昨年起きた白馬村で、なぜ死者が出なかったのかをその取り組みから探りました。資料から調べた白馬村の取り組みがどうつながって死者がなかったのかを話し合うことで、「家の下敷きになっていた人を、決められた人が来て、家にあったチェーンソーを使って助けたんだと思う。」等と、自助、共助、公助が関係し合っていることを捉えていきました。また、白馬村で区長をしている方の話から、それらの取り組みを効果的に機能させたのが「近所づきあい」であることに気付き、個別に作成している「防災・減災ハンドブック」に自分にできることを書き足していきました。



【友達の話をうなずきながら聴く】

2015 新CANスタート！！

本校の総合学習「CAN」は、次の言葉の頭文字をとったものです。

- C・・・Cluster (クラスター) 異学年合同の小集団
- A・・・Action Learning (アクション・ラーニング) 交流学习法
- N・・・Narrative Approach (ナラティブ・アプローチ) 振り返り法



総合的な学習の時間を使って、私たちの身の回りの世界すべてを対象に、興味ある内容を探究し、自らの可能性を拓げていく附属坂出中学校だけの「本物の学習」です。

C クラスター編成にMIを活用&課題設定力をパワーアップ！

研究テーマを探究していくために必要なMIの中で、自分にはないMIや、補ってもらいたいMIをもっている人とクラスター(研究チーム)を組み、互いの才能や得意分野を活かしていきます。また本年度は探究学習の大きな課題であった「課題設定力」の育成に重点を置き、研究を進めます。

MI・・・自分の**才能**や**得意なこと**

- 言語・・・言葉で伝える、聞き取る
- 論理・・・筋道立てて考える
- 空間・・・イメージして絵や立体で表す
- 身体・・・目的に応じて体を動かす
- 音楽・・・演奏や作曲や鑑賞をする
- 博物・・・原理や仕組みを調べる
- 対人・・・他人の気持ちを理解する
- 内省・・・自分自身を見つめ直す



探究に必要なMIをもっている人がいいな！

自分の才能を活かせそうだ！



■ 探究課題設定のさらなるコツ

その1：テーマを疑問文(問い)にしてみる

【テーマ】:「再生可能エネルギー」



【問い】: 再生可能エネルギーはエネルギー問題を解決できるか?

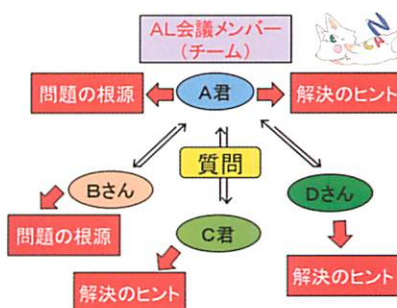
【問い】: これからの再生可能エネルギーは何が主流になるか?

答えが求められる形になり、答えがイメージできるようになる！



A アクション・ラーニング会議で問題解決！

A君の問題に対し、他の参加者が様々な質問を行います。A君はそれに答えていく中で、クラスターや自分の問題の本質が何かに気づき、解決へのヒントを見出ししていきます。他のメンバーもA君の問題について考えることが、自分自身の課題を振り返ることへとつながります。



N ナラティブ・アプローチで新たな気づきが！

研究を振り返る「CANLOG」は自分だけの研究ノートです。日々の探究の成果や課題など、そこに綴られたものは、自分だけの「研究物語」となり、自分とじっくり向き合い、仲間と語り合うことで過去と現在の自分を比べ、自分の考え方の変化や成長に気づくことができます。



CANLOGの例



平成26年度 公開授業研究会 報告

平成27年1月23日、本校にて、公開授業研究会を開催しました。授業公開中心の小さな会にもかかわらず、県内中心に、保、幼、小・中・特別支援学校、関係機関から63名のご参会をいただきました。本年度、本校では、児童生徒一人一人が「分かって、動けて、学び合う」授業を実現するための授業改善を行っています。午前は、小・中学部、高等部が授業を公開し、それぞれが「分かって、動けて、学び合う」ための授業における工夫を提案しました。午後は、授業検討会にて、ご参会の皆様や日頃からご指導・ご協力いただいている県教委、県立学校、大学の先生方から、授業について貴重なご意見をいただきました。また、創価大学の藤原義博先生のご講演では、児童生徒一人一人が「分かって、動けて、学び合う」授業の具体を分かりやすくご教授いただきました。今後、来年度の教育研究大会に向けて、本会での成果を生かし、さらに研究を深めていきたいと思っております。

★公開授業の様子を紹介します。

小学部

小学部では、「日常生活の指導（チャレンジタイム～帰りの会）」を公開しました。『チャレンジタイム』では、児童がそれぞれの課題に自立的・主体的に取り組むための、『帰りの会』では、児童が自分の役割をしっかりと果たしたり、発表活動での児童同士のやり取りの質を高めたりするための支援方法について提案しました。多くの参観者の中でしたが、児童たちは普段どおり、自分の課題や役割に意欲的に取り組み、頑張っている姿を見ることができました。



中学部

中学部では、朝の時間帯に取り組んでいる「日常生活の指導（掃除、朝の会、運動）」を授業公開しました。生徒が掃除への目的意識をしっかりと持って取り組み、仲間とできたことを評価し合う姿の実現をめざし、そのための支援環境の工夫について検討を重ねてきました。

当日は欠席者がいて少し寂しい雰囲気でしたが、どの生徒ももてる力を十分に発揮し、仲間と協力し、認め合う姿が多く見られました。



高等部

高等部では、将来のライフスタイルを見据えて、実際の生活に必要な内容を重点的に学習する「暮らし」の授業を公開しました。今回の洗濯の課題では、洗濯物によって何を使って、どのようなポイントに気を付けながら干せばいいのかが分かって動けることをめざして、支援環境の工夫を行いました。

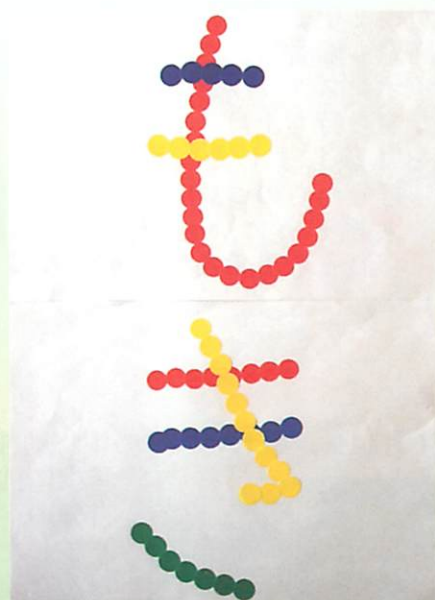
当日は、自分の目標を意識しながら、支援ツールを使いこなして主体的に活動する姿が見られました。また、グループでお互いの活動を確認し合ったり、知恵を出し合ったりと学び合いながら学習を進めることができました。



特別支援教室「すばる」で活用している教材の紹介

特別支援教室「すばる」で、書字に困難のあるお子さんに対して行った個別指導の実践を紹介したいと思います。

文字や数字を読むことはできるのですが、字形を覚えて書くことが難しい幼稚園年長のA君の指導で、図のような平仮名シートを作成しました。提示する平仮名は、筆順が分かりやすいように一画ずつ色分けされ、○のシールをいくつも連ねて一つ文字が構成されています。この平仮名シートを用いた課題では、文字を読み上げながらでこぼしたシールの上を筆順に沿って指でなぞらせることで、「聞く」「見る」「触る」「運動する」といった複数の感覚を統合的に活用して字形の記憶を促すことをねらいました。少し不器用なA君も、平仮名を読み上げながらシールの上を指でなぞることはいやがらず、指の動きをコントロールしながらなぞっていました。また、指で大きな文字をなぞることから始め、徐々に鉛筆で文字をなぞる課題に進むというスモールステップの指導は、不器用なお子さんの書字の負担を軽減し、反復練習を避けた効率的な文字の習得にもつながりました。



図：シールで作った平仮名シート

この他にも、アルファベットを覚えることが難しい中学校1年生のB君に対して、紙粘土を使ってアルファベットを一つずつ作りながら字形を覚えることができるよう指導しました。B君は、アルファベットを何回書いても覚えることができませんでしたが、紙粘土でアルファベットを作る過程で字形の細部まで認識することができ、字形を混同しやすいアルファベットも正確に覚えることができました。

2012年、文部科学省から「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」が公表されました。知的発達に遅れはないものの、学習面で「読む」または「書く」に著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は2.4%という調査結果でした。学習障害のある児童生徒は、通常教室で主に聴覚と視覚を用いて授業を受けています。しかし、認知能力に偏りがあり、視覚あるいは聴覚情報の処理に弱さがある場合、授業内容が理解できなかったり、指導についていくことが困難になったりする可能性があります。まじめに努力して覚えてもすぐに忘れてしまうことの多い子どもたちは、自尊心を喪失したり、学習性無力感になったりすることもあります。今回ご紹介したような多感覚を用いる学習法は、情報の処理に偏りのある学習障害の子どもたちや学習したことを覚えにくいお子さんにとって、効果的な学習の習得につながることがあります。

【平成27年度の特別支援教室「すばる」の申込みについて】

平成27年度の特別支援教室「すばる」へのお申込みは、4月10日（金）より受付を開始いたします。受付開始日にご注意ください。申込みの手続きにつきましては、ホームページの【申込み方法】をご覧ください。<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/>

幼稚園より

お餅つき会

12月16日に坂出白峰ライオンズクラブの方々のご協力で、つき立てのお餅を味わう「お餅つき会」が行われました。園児たちの「よいしょ！よいしょ！」の掛け声に合わせて、威勢のよい餅つきが始まりました。

園児も順番に大きな重い杵をライオンズクラブの方に支えられながら持ち上げ、一緒に餅つきを体験しました。小さな手で、自分たちのついた餅を丸めて、大事そうにいただきました。心温まる貴重な経験ができました。



よいしょ！力もち



優しく丸めてごらん



♪もちつきべったらこ

新春ふれあい登山

1月14日、厳しい寒さの中、幼稚園の全園児と保護者が、一緒に「角山」に登りました。初めて登山に挑戦する黄組さん、幼稚園生活最後となる青組さん。一人一人が自分のペースで、一生懸命山道を登りました。頂上に着くと、どの子どももみんな達成感を味わいながら、山頂からの景色を眺めたり、木の実や落ち葉を拾ったり、自然とのふれあいを楽しみました。



幼稚園最後の「角山登山」



頂上までがんばるぞ！



見てごらん

小学校より

出張メンテナンス

11月15日（土）、昨年に引き続き特別支援学校へ出張メンテナンスに行ってきました。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の保護者、生徒、先生方、約30名が参加し、ふれあい祭りに向けた駐車場の草刈りを1時間程行いました。今後も附属坂出学園として、交流を図ることができればよいと感じました。

坂出市PTAソフトバレーボール大会

11月24日（月）、坂出市PTAソフトバレーボール大会に男子2チーム、女子2チームで参加しました。結果は女子Aチームが見事ベスト4に進出しました。校区の広い附属坂出小学校ですが、スポーツを通じて保護者同士の絆を深めるよい機会となったと思います。



竹馬と一輪車購入

皆様にご協力いただいている制服などのエコ販売の売上金で、竹馬と一輪車を購入し、小学校に寄贈しました。寒空の下で、子どもたちは元気いっぱい楽しんでおり、学校に来られた際は、ぜひご覧になっていただければと思います。



中学校より.....

12月7日(日)、中学校のオープンスクール時に、昨年に引き続き2回目となる保護者交流カフェを開催しました。新一年生の保護者、入学希望者とその保護者の方を対象としたイベントです。場所は昨年同様、中学校の多目的室をカフェにしました。メニューは、コーヒー、紅茶、抹茶ラテ、ジュースなどPTA役員が準備しました。

まず中学校でどのような行事が行われているかを知っていただくため、DVDで学校生活の様子や行事を上映しました。先輩たちの生き生きとした笑顔を映像で見ながら、新一年生たちは期待に胸を膨らませた事と思います。

また、保護者交流カフェでは、CANで生徒たちが考案した“しょうゆ豆どら焼き”の販売も行いました。昨年、即売した実績を基に販売数を大幅に増やしましたが、それもすぐに完売となってしまいました。

本年度もたくさんの参加者により、大にぎわいとなった保護者交流カフェ。この流れが4月に行われる予定のウェルカムランチに繋がっていき、ますます保護者同士、また先生方や子どもたちとたくさんの新たな輪が生まれることを期待します。



特別支援学校より.....

5P連研修会開催

1月28日(水)、5P連(香川県特別支援学校知的障害教育校5校PTA・親の会連絡協議会)の研修会を本校にて開催いたしました。

寒さの厳しい中、西部養護、丸亀養護、中部養護、東部養護から、校長先生を始めPTA担当の先生方、そして多くの保護者のみなさまに参加していただき、本校の特色を生かした有意義な会となりました。

来賓として香川県手をつなぐ育成会の太田様にお越しいただきました。来年度の中四国大会が香川県で開催されるというご案内がありました。

続いて、本校の武蔵校長先生に「生活や余暇から社会参加を深める」というテーマでご講演いただきました。きめ細かい支援の手順や広げ方だけでなく、支援する側の心構えも自然と学ぶことができる内容でした。

午後からは、「暮らしを支える」、「子どもを理解するために」という二つのテーマの分科会に分かれて、情報交換、意見交換の時間といたしました。

アドバイザーとして、いいのやま福祉会理事長で本校のPTA会長でもあった大内様をお迎えし、保護者と福祉事業所、両方のお立場からの貴重なご意見を伺いました。

また、大学からは、坂井先生と小方先生に参加していただきました。各校から寄せられた質問に対する的確な回答あり、新しい情報ありで、それぞれに持ち帰る部分があったのではないかと思います。

各養護学校の保護者のみなさま方より「たいへん勉強になった」「楽しいコミュニケーションがとれる時間はいいなと感じた」等の感想をいただきました。

運営にあたり、ご協力いただきました保護者のみなさま、ご尽力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

親和会



【開会行事】



【武蔵校長先生の講演会】

附坂中に受け継がれ続ける、冬の朝の「動」と「静」

附坂中の冬の朝には、二つの風物詩があります。一つは、部活動の朝練習で白い息を吐きながら走り込む1,2年生です。そしてもう一つは、早朝自主学習に毎朝8時から取り組む3年生です。そして3年生の教室には、1,2年生一人一人からお世話になった先輩方へのメッセージが飾られています。そこには、「2年間ありがとうございました。僕たちを時には注意し、時には励ましてくださりありがとうございました。受験勉強を頑張ってください。」などの、感謝と励ましのお気持ちが込められています。また、1,2年生の教室には、メッセージへのお礼として3年生から贈られた花が、後輩達を見守っています。全員がベストの体調で、部活動や入試で実力を発揮してくれることを願うばかりです。



全国レベルで活躍しています

去る12月7日に行われた第2回科学の甲子園ジュニア全国大会で、昨年に引き続き第10位という快挙を達成しました。香川県選抜チームの青木章真さん(2年、昨年に引き続き出場)、井口明音さん(2年)、大西美帆さん(2年)、西谷直起さん(2年)は、県予選を突破した秋から、休日返上で課題に取り組み、本番に備えた努力が報われました。来年も楽しみにです。昨夏の全国中学校総合体育大会、国民体育大会等大活躍した水泳リレーメンバーの村上雅弥さん(3年)、花車優さん(3年)、綾崇稀さん(2年)、長野巧さん(2年)が、平成26年度香川県スポーツ栄光賞を受賞しました。彼らの今後の活躍が本当に楽しみです。森川宝さん(2年)が卓球部での経験をもとに書いた作文が、日本体育協会主催の日本フェアプレイ大賞を受賞しました。この賞は、自分自身が実践したり、体験したり、見たりしたスポーツに関わるフェアプレイ・ストーリーに贈られるもので、大賞作品は体協フェアプレイニュースという壁新聞に掲載され全国に配布されます。皆さん、ぜひ見てください。



中学校

耐震工事、体育館床工事が終わりました。

8月から始まっていた北棟の耐震工事、11月から始まっていた体育館の床工事が順調に進み、3月からはどちらも使えるようになりました。しばらくできなかったパソコンを使った学習や、室内での体育活動や集会等が行えるようになり、子どもたちも喜んでます。

北棟4階の教生控室は、学年全員で集まれる貴重な部屋ですが、今回の工事では廊下だった部分を取り込み、より広い部屋ができました。冷暖房も付いたので、さまざまな活用のしかたができそうです。北棟の他の階も内側から見ると新築同様で、メディアルームはパソコンも新しくなり、子どもも気持ちよく調べ学習ができます。



体育館は床が新しくなり、色も明るくなったので、ラインが見やすくなりました。また、これまでバレーボールのネットを張るとボールが大きく傾いて危険でしたが、それも解消されました。学校の体育活動では、縄跳び大会に向けた練習に弾みがつき、熱心に練習する姿が見られました。PTA活動でもさまざまな大会等に向けてぜひ有効活用してほしいと思います。



小学校

特別支援学校

小学部

～初釜～

1月13日、初釜を行いました。放課後活動でお世話になっている綾先生にお手前を披露していただきました。また、いつも集会のときに来てくださる「おはなしほけっとさん」や中学部の皆さん、事務室の先生方を招待して、「おもてなし」をしました。お茶をたてたり、お運びしたり、おいしくお菓子をいただいたりして楽しいお茶会になりました。



中学部

～持久走大会～

1月29日、持久走大会を行いました。今年は、インフルエンザが流行したり、練習の日に雨が降ったりして十分な練習ができませんでしたが、一人一人が目標を達成するためにしっかり走りました。保護者の皆様の応援もあり、ほとんどの生徒がベスト記録でゴールし、達成感あふれる表情がたくさん見られました。



高等部

～作業納会～

高等部では1年間の作業学習の締めくくりとして「作業納会」をしました。各作業班から、1年間の取組の報告があり、成果を喜び合いました。1年生が豚汁、2年生がデザート、3年生が会場準備とそれぞれの役割を分担し、笑顔あふれる会食が行われました。卒業を身近にした3年生にとって思い出になりました。



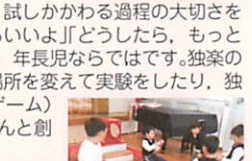
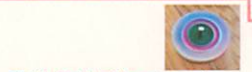
幼稚園

こま・コマ・独楽に夢中です! ～素朴な遊びのもつ力～

サンタクロースから、3歳児は手回し独楽、4歳児は糸引き独楽、5歳児は鉄芯独楽をプレゼントされました。冬休みは家庭で楽しみ、それ以来、今も友達と遊んでいます。独楽には、不思議な魅力がいっぱい。子どもたちの発想、想像力に驚かされ、また一緒に夢中になるほど、おもしろいのです。

3歳児の子どもたちは独楽の色や回り方に興味津々で、色を塗りこんだり飾りをつけてみたり、さらには、コルク積み木を使って独楽コースができました。独楽が回りながら落ちていく、動きをじっくり試していました。4歳児は、糸をひくタイミングをいろいろと工夫しながら回したり、色の変化に目をつけて友達と見合ったりする姿が見られています。自作の独楽も登場し、ますます独楽モード。5歳児は、なかなか回らない独楽と粘り強かかわり、「回った!」というときの笑顔、なんともすばらしく、試しかかわる過程の大切さを実感している表情です。友達と「～したらいいよ」「どうしたら、もっと回る?」と互いに聞き合い伝え合う姿は、年長児ならではの姿。独楽の具合を自分で調節したり、独楽を回す場所を変えて実験をしたり、独楽リレー(独楽回しをチームでつなぐゲーム)等を楽しんだり、独楽の遊びがどんどんと創造されていっています。

子どもたちの頭の中には、大きな世界が広がっています。「試して遊ぶ」ことから、たくさんのことを感じ学び、友達との触れ合いもため込んでいることを実感します。



編集後記

桜の蕾が少しずつ膨らみを増し、春を実感する頃になりました。春は、一つの区切りの時季でもあります。この区切りの時季に、一年間を振り返ってみてはどうでしょうか。振り返ることで自分の心の中で「対話」し、新しい一年を「主体的」にどう過ごしていくかを考えられるのではないかと思います。よりよい一年にしていきましょう。

この3月で卒業、卒園される皆様、おめでとうございます。附属坂出学園で身に付けた力を新しい生活の場、学びの場でしっかり生かして活躍されることをお祈りいたします。

保護者の皆様をはじめ関係の皆様方、今年度も温かいご支援をいただきありがとうございます。来年度も引き続きご指導、ご支援をお願いいたします。

発行年月日：2015年3月11日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

倉野 晴代 (附属幼稚園)

樽本 導和 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 中西 健三 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 合田 卓生 (附属特別支援学校)